**プレゼンテーションについて**

2015.10.15　野村港二

**1. 伝えたいことは何だろう**

絶対必要なのは identify

　　単語、フレーズ、文、文章、パラグラフごとに意味がidentifyされているか

トピック を自分で把握しているか

　　自分自身で、何を伝えるべきかを熟慮したか

別の単語セットで話せるか

　　専門用語を使わずに表現できるか；あいうえお作文や、韻文などで表現してみる

切り口を選び抜いたか

　　今のロジックが最適なものか検討したか

　　発想を転換して改善する余地は、必ずある

話を刈り込んだか

　　あらすじに肉付けすると贅肉だらけになる；1.5倍ぐらい作ってから刈り込む

意味のある情報、ない情報

　　量を示す曖昧表現（かなり、とても、非常に…）を使っていないか

**2. 相手に合わせろと言うけれど**

相手のことなど分からない

　　あらかじめ相手の情報を得る努力をするほど暇ですか

ディテールをどこまで話すか

　　これは誰にプレゼンをしているかで異なるが、質問で答えれば十分なことが多い

学会のとき、結末は自分しか知らない

　　最新の情報を始めて発表するのであって、相手に教えるのが学会プレゼン

introduction ではなくorientation

　　背景説明だけでなく結論の方向に相手を向けさせるためのイントロを

でも、もちろん相手は大事

　　研究室セミナー、学会、学位論文発表、講義、市民講座で何が変わるか

**3. スライドを使うなら**

スライドは読めてなんぼ

　　作りこみすぎは禁物、一文一行など読みやすさは大切

7つのchunkで、1文字でも少なく

　　ヒトの短期記憶は7チャンクまで；一文字でも少なくする努力を

載せたものは説明する

　　スライドやレジュメはすべてを説明する；無用な装飾や①、→などにも注意

英語か日本語か

　　読めてなんぼなら多数派の言語だけれど、僕は面倒だから英語

スライドにはオリジナルのものだけ

　　イラストや写真もオリジナルなら配信にも支障はない

最初のスライドの情報量

　　演題、名前、所属は周知；キーワードの説明は演題とともに

**4. 話し言葉、書き言葉、ユニバーサルを意識して**

自分の言葉遣いで

　　無理に共通語を使わず、少しフォーマルな自分の言葉で

緒言方法結果考察は読み取りにくい

　　スライドごとにオリテから考察までを話し、次のスライドへのリエゾンを

原稿は必要か

　　僕は出だしだけ作ることもある；原稿はあって良いが、使わないと良いと思う

原稿は口述筆記

　　絶対にモニター上で原稿を書かない、話してみてそれを書き取る

眼でも耳でも同じに伝える

　　例えば「さいきんでは…」は、「最近では」「細菌では」どちらだろう

ユニバーサルデザイン

　　ＣＵＤは必修

**5. 準備は発表の開始まで**

本番のイメージトレーニング

　　練習は始めから起立して、手に持つものをもって、振り付けも考えて

スライド一覧は有用

　　1ページ4枚とかではなく、全スライドが一覧できるメモは役立つ

会場の下見

　　演台は上手か下手か、会場の大きさは、スクリーンのサイズはを確認

最後にペース配分の確認

　　直前の演者の終了時刻が見えた時点で、実時刻で進行表を作る

**6. なぜプレゼンをするのか**

聴衆は、あなたに会いに来たのです

次の発表のとき、あなたに会いに来させるのです

内容のディテールなどすぐ忘れられますが、あなたのことは覚えさせられます